

UP!

香川大学創造工学部 広報誌「アップ!」

Number

03

香川大学
創造工学部

KAGAWA UNIVERSITY
Faculty of Engineering and Design

2026年9月発刊

【アップ!】



TURNING POINT

今回の特集テーマは

「人生のターニングポイント」。

今の自分を形づくるのは、あの出来事があったから、

今のポジションは、あのときの決断があったから、

今の仕事にたどり着いたのは、あの人に会ったから、

そのときにはわからなかった、

大きな出来事と選択が誰にもあります。

人生のターニングポイントについて、

先生方に振り返ってもらいました。

挫折は成長の糧。
失敗を重ねるたびに人は強くなり、
諦めずに挑戦し続けることで、
新たな道が切り拓かれる。

学部長

吉田秀典

よしだひでのり
1995年東京大学大学院工学系研究科
土木工学専攻博士課程修了。
2005年香川大学工学部教授、
2015年10月～2025年9月 香川大学副学長。
2025年10月～香川大学創造工学部学長。
スコッチ・ウイスキーのシングルモルトを愛する。

知的好奇心の芽生え、将来の夢は研究者

私が子どもの頃は、今のように読みたい本を気軽に買える時代ではありませんでした。本を買ってもらえるのは誕生日やクリスマスくらい。友人たちも同じような環境だったと思います。そのため、私は自然と公立図書館へ通うようになり、借りられる本を次々と読んでいました。今でも、大学時代の教科書を保管していますが、その価格を見ると、40年前にもかかわらず現在とほとんど変わらず(普通のアイスクリームは50円位でした)、当時の書籍は決して安いものではなかったことが分かります。

夢中になって読んだのは、江戸川乱歩の『少年

探偵団』シリーズと、偉人たちの伝記でした。これら二つのジャンルは私の知的好奇心を大いに刺激。なかでも、日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹博士の伝記には強い感銘を受け、「いつか自分もノーベル賞を取りたい」と両親に宣言したことを今でも覚えています。もちろん、両親はまるで相手にしていなかったです(笑)。私の高らかな宣言とは裏腹に、親から私の知的好奇心への支援はなく、私の図書館通いは続きました。こうした経験を通して、「将来は研究者になりたい」という思いを自然と抱くようになりました。



知的好奇心と探究心が培われ、その後の原動力に

湯川秀樹博士をはじめとする科学者の伝記を読むうちに、科学全般に興味を持つようになり、とりわけ数学の面白さに惹かれていきました。中学校に入学した頃には、矢野健太郎博士の『数学へのすすめ』をよく読んでいました。なかでも印象に残っているのが、半径の異なる外輪と内輪をもつ車輪を転がす問題です。外輪と内輪は一体となって同じ回数だけ回転し、中心も同じ距離を移動します。それにもかかわらず、半径の異なる二つの円が、あたかも同じ距離を転がったように見えるのです(アリストテレスの車輪)。実際には、地面に接して滑らずに転がっているのは外輪であり、内輪には円弧の長さと移動距離との差に相当する「滑り」が生じています。身近な車輪の動きから、このような一見矛盾した問いが生まれることに、数学の不思議さと面白さを感じました。

矢野健太郎博士の著書は、入門書から専門書、啓蒙書まで幅広く読みました。『解法のテクニック』も愛読書の一つで、数学は単に計算するためのものではなく、身近な現象を論理的に捉え、その背後にある仕組みを考える学問なのだと感じるようになりました。

学校の数学の授業ももちろん大切でしたが、それ以上に私の興味を引いたのは、矢野健太郎博士の著書に書かれている、学校では扱わない数学の話題でした。授業で習う内容を理解するだけでは物足りず、放課後や休日には本を読み進めながら、「なぜそうなるのか」「他にも解き方はないのか」と考えることに夢中になっていました。また、本に掲載されている問題や、自分で見つけた数学の課題に挑戦し、試行錯誤の末に自分の力で理解できたり、解法にたどり着いたりしたとき

師との出会いで、育まれ、人は成長する

高校受験を経て進学した高校には、当然ですが、自分と同程度の学力をもつ生徒が集まっていました。そのため、中学校までとは学習環境が大きく変わり、加えて、数学の試験も単なる知識の確認ではなく、思考力や応用力を問う問題が多く出題されました。私自身、現在大学で試験問題を作成する際には、受験者の理解度が適切に評価できるよう問題の難易度を調整していますが、高校でも同様の工夫がなされていたのだと思います。

入学後最初の数学の試験では30～40点台という結果でした。中学校では数学が好きで、自分なりによく勉強してきたつもりでしたので、この結果には大きな衝撃を受けました。同時に、「数学が好き」ということと、「数学の基礎力や応用力が十分に身に付いている」ということは必ずしも同じではないことを初めて実感しました。

その後もしくはは思うような成績を収めることができませんでした。しかし、この経験を通して、自分の理解を過信せず、基礎から着実に積み重ね

ることの大切さを学びました。今振り返れば、この時期は数学への興味だけで前に進んできた自分が、初めて自分自身の実力と正面から向き合った時期だったように思います。

高校時代は柔道部に所属し、朝練習と放課後の練習に打ち込む毎日でした。体力的にも厳しい生活でしたが、高校2年生の夏頃、「このままではいけない」と考え、数学だけは毎日継続して勉強することを自分に課しました。その頃、数学担当で担任でもあった先生が、私の様子をよく見てくださっていました。成績だけではなく、毎日少しずつ努力を続けている姿を認め、折に触れて声を掛け、励ましてくださいました。先生は決して答えを教えるのではなく、「自分で考え、自分で理解できるようになるまで待つ」という姿勢で接してくださいました。そのような日々の積み重ねの中で、少しずつ数学への理解も深まり、自信も取り戻していきました。今振り返ると、自分の好奇心だけで学び続けることには限

の喜びは格別でした。当時は、そのような体験を重ねるたびに、自分の考えが数学の世界で少しずつ通用するようになった気がして、大きな充実感を覚えていました。

今振り返れば、それは数学が得意だったというよりも、「分からないことを自分で考え、理解すること」そのものが楽しかったのだと思います。この頃に培われた知的好奇心と探究心は、その後研究者を志す上での大きな原動力になりました。



界がありました。自分では気付かない課題や進むべき方向を示し、努力を信じて見守ってくださる先生がおられたからこそ、一歩ずつ前へ進むことができたのだと思います。

卒業後も毎年欠かさず恩師へ年賀状を送り続けました。先生からは「頑張っているか」「しっかりやっているか」と、いつも変わらぬ言葉をいただいていた。やがて先生が文字を読むことが難しくなられた際には、ご家族から「年賀状はご遠慮いただきたい」とご連絡をいただき、その数年後に先生はご逝去されました。先生は長年にわたり多くの卒業生を送り出されましたが、追悼文の執筆者として私をご指名いただきました。その知らせを受けたとき、先生とのご縁の深さをあらためて感じるとともに、人は一人で成長するのではなく、人生の節目で導いてくださる「師」との出会いによって育てられていくものなのだと、強く実感しました。

理学志望を取り下げ、橋梁への関心を起点に土木工学科へ進路変更した大学受験は次号4号で。

ターニングポイントは、 一歩踏み出した先にある

挑戦しなければ失敗はありませんが、成功もありません。

研究は、最初からうまくいくことの方が少なく、失敗の原因を考え、次の方法を試すことの繰り返しです。挑戦と失敗を積み重ねた先に、成功をつかむことができます。失敗は成功の反対ではなく、成功に近づくための大切な過程だと考えています。

また、環境が大きく変わるときには、不安や迷いがつきものです。そのようなときは、周囲の評価や目先の条件だけで判断するのではなく、自分が何を大切にしたいのか、その選択を後から振り返ったときに納得できるかを考えるようにしています。そして、岐路に立ったときには、できるだけ前向きに考え、「今しかできないことは何か」を判断基準の1つにしています。

材料物質科学コース 准教授

原 先生

はらみつお
2001/4～2005/3(4年間)名古屋大学工学部化学・生物工学科
2005/4～2007/3(2年間)名古屋大学工学研究科物質制御工学専攻博士前期課程
2007/4～2009/3(2年間)富士フイルム株式会社
2009/4～2012/3(3年間)名古屋大学工学研究科物質制御工学専攻博士後期課程
2010/4～2012/3(2年間)日本学術振興会特別研究員DC2
2012/4～2017/3(5年間)名古屋大学大学院工学研究科物質制御工学専攻助教
2017/4～2024/3(7年間)名古屋大学大学院工学研究科有機・高分子化学専攻助教
2023/11～ 株式会社ニッシリ技術アドバイザー(兼務)
2024/4～2026/3(2年間)名古屋大学大学院工学研究科客員准教授
2024/4～ 香川大学へ
2025/5～ 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)専門調査員(兼務)



教員紹介



研究室紹介

研究室卒業後の主な就職先

株式会社ダイセル
テイカ株式会社
根上工業株式会社

周囲から頼まれることが多く、
人を支えたり、物事をまとめたりする
役割が自分には向いている
のかもしれない

学生時代は、どちらかといえばリーダー役を担うことが多かったと思います。サークルの代表を務めたり、友人とイベントを企画したりする中で、自然と周囲をまとめる立場になりました。自分と同じ考えの人ばかりではない中で、意見を調整することや、相手の立場に立って考えることの大切さを学びました。この経験は、現在、学生と接するときや研究室を運営するときにも活かしていると感じます。

大学・大学院時代は、家族よりも長い時間を研究室メンバーと過ごしながら、実験や議論に取り組んでいました。研究は失敗することの方が多く、当時は大変に感じることもありましたが、今となってはその失敗も含めて良い思い出です。地道ではありますが、トライ&エラーを繰り返しながら、目的とする化合物の合成に成功したり、期待していたデータが得られたりしたときの達成感は、今でもよく覚えています。

民間企業を辞めて、大学に 戻ったことがターニングポイント

企業で働く中で、大学で行われている研究が社会とどのように繋がっているかを実感しました。一方で、もう一度大学で研究に向き合いたいという思いも強くなりました。そのとき、「今しかできない挑戦かもしれない」と考えたことが、大学に戻る決断を後押ししました。博士後期課程に進学すると、研究室に同じ立場の学生は少なく、自然と研究室を越えた交流や、学外の方々との関わりが増えました。その結果、自分のコミュニティが広がっただけでなく、多様な価値観に触れ、自分自身の視野も大きく広がりました。この点でも、大学に戻ったことは自分にとって大きな分岐点だったと感じています。大きな進路変更には不安もありましたが、家族や友人が理解し、支えてくれたことはとても大きな力になりました。自分一人では決断しきれなかった部分もあり、周囲の支えがあったからこそ、前向きに新しい道へ進むことができました。

次のターニングポイントは、研究室として生み出した成果を、社会に還元できたときかもしれません。現在取り組んでいる研究がさらに発展し、共同研究や社会実装に繋がっていくことがあれば、自分自身の研究者としての役割も変わっていくと思います。また、学生や若い研究者を育てる立場として、研究室をどのように発展させていくかも、今後の大きなテーマだと感じています。



01



02



03

01 夏祭りに、部署メンバーで焼きそば屋台を出店(富士フイルム勤務)
02 研究室で、タコ焼き作り(大学院生)
03 研究室の学生とリレーマラソン大会に参加(教員初期)

讃岐の風景をつくる



木と、ともに。



本 社：三豊市仁尾町に尾幸 15-1
高 松：高松市郷東町 23-7



考え、選び、
動を続けた積み重ねが、
次の一手を
ターニングポイントにする。

周囲から声をかけやすい、
頼られる「先生キャラ」

自分から言うのも変で、お恥ずかしい話です。学生時代は友達から「ここを教えて」とよく言われてました。それを自覚したのが結婚式です。十何人ぐらいが喋ってくれたお祝いのビデオメッセージが、ことごとく「勉強を教えてください、ありがとうございます」。全員が全員そう言うので、逆にそれしかないの？と(苦笑)。もちろん私よりも成績が上の人はいる中で、私に声がかかるのです。試験前になると、家に集まってきて皆で勉強していました。結果論ですし、この頃に教員になろうと決めては無いのですが、生き方というか、歩みがそういう色を帯びていた気配はします。

オンラインゲームで、資源管理・
目標設定・最適化のセンスを獲得

これもちょっと恥ずかしい話です。大学1年次早々友達からパソコンのオンラインゲームに誘われて、かなり没頭しました。それこそゲームに全集中。蓄財のためのアイテム相場のフォロー、レベル上げのための高アクティブプレイヤーのウォッチ、寝食を惜しんで勤しみ、最終的にはそこそこのステータス確保ができました。2年半くらいはしていたでしょうか。

科目数が増える3年後期に「このままだとヤバイ」と感じ、本業(勉強)に向き合いました。ゲームを断ち、時間や労力など全資源を早期から期末試験対策に投入。寝食を惜しむスタイルのまま、タスクは問題演習と自己採点、不得手の抽出と解消、その反復へ移行。期末レベルではあまりやらない過去問収集や教員居室訪問(科目の質問)もして万全を期しました。見積もりどおりの結果を得たことで、計画したパフォーマンスが発揮できれば、狙った目標にたどり着ける、その枠組みが確立されたターニングポイントだったと思います。その後の修士課程・博士課程進学も、このスキームで臨み、クリアできました。(編集部補足:先生がゲームに全集中したのは、人生の中でその2年半だけ)

機械システムコース 准教授

小水内 俊介

こみずないしゅんすけ

2003/4～2007/3(4年間)岩手大学工学部機械工学科
2007/4～2009/3(2年間)東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻
2009/4～2012/3(3年間)東北大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻
2012/4～2013/3(1年間)北海道大学大学院情報科学研究科博士研究員
2013/4～2019/3(6年間)北海道大学大学院情報科学研究科助教
2019/4～2023/3(4年間)北海道大学大学院情報科学研究科助教
2023/3～ 香川大学へ



教員紹介



研究室紹介



研究室卒業後の主な就職先

株式会社タダノ
株式会社SCREENホールディングス
株式会社出雲村田製作所
四国旅客鉄道株式会社

シヘンテック、
知ってく?

配電盤

変圧器

精密金型

半導体製造装置用電源

自動販売機用電源

でんき温水器

四変テック株式会社
SHIHEN TECHNICAL Corporation

四国電力グループ
ダイヘングループ

香川県仲多度郡多度津町
桜川二丁目1番97号
TEL 0877-33-1212

飲料用自動販売機の電源は
日本のシェアほぼ100%!
(2026年7月時点)

変圧器や配電盤は
北海道から沖縄まで
全国各地に納入しています。

パソコンが普及し始めた当時 無いものは自分で考え創り出す

小学校高学年で、電器屋の店頭に並ぶパソコンに触れ、プログラミングを学んだ体験が原点です。当時はパソコンが普及し始めた頃で、PC-6001 (NEC)、MZ80 (シャープ)、FM-7 (富士通、FMVの前) が並んでいました。展示されているパソコンは電源が入っていて、誰でも自由に触れる状態。プログラミングが面白くて、本屋さんでプログラミング言語を調べ、調べた内容をそのまま記憶して、電器屋に戻ってプログラムを組むことをしていました。小学生ながら、ものづくり、技術を極める楽しさを体験する毎日。秋葉原という実地の学習環境！に恵まれ、「足で稼ぐ」情報収集姿勢を形成できたのも、その後の人生に大きく影響しました。

中学になると、親にワガママを言ってパソコンを買ってもらい自宅でプログラミング、高校も工業系、大学も工学部、研究室もプログラミング研究でした。

情報コース 教授

山田 哲

WEBに
記事あり

工業高校で培われた 「型」と反復の重要性

高校は週3回の実験とレポート作成。この経験から、型を守る手順と論理的思考の重要性を得ました。今の自分を作る、大きな要素です。現在よく言われるタイプ・コスパ志向は理解できませんが、「考えずとも体が動く」レベルまでの反復練習は知的活動にも不可欠だと考えます。私は新しい分野に取り組む際は、「上位概念・背景・型」を先に把握してから具体化する思考法で臨みます。

私が担当する学生さんには「何度もやることを失敗と捉えない」、AIの活用も試行錯誤しながら段階的に活用範囲を広げていくように指導しています。一度で完璧を目指さず、失敗を学習として複数回のチャレンジで品質向上。諦めた段階で失敗と考え、成功するまで続けられれば良いのです。ただ、止めること自体も、継続することと同じくらいの勇気が必要。そのあたりが難しく、面白いところです。

やまださとる
1990/4～1994/3 (4年間) 東京電機大学工学部電子工学科
1994/4～2004/1 (10年間) キヤノンファインテックニスカ株式会社 (旧キヤノンアプテックス株式会社)
2004/2～2025/3 (21年間) 株式会社リコー
2019/8～2021/3 (1年半) 香川大学イノベーションデザイン研究所客員研究員
2021/4～2023/3 (2年間) 香川大学大学院工学研究科信頼性情報システム工学専攻
2021/12～2023/3 (1年半) 香川大学情報メディアセンター特命教授
2021/6～2025/3 (4年間) 香川大学客員教授
2023/4～2025/3 (1年間) 香川大学情報化推進統合拠点特命教授
2025/4～ 香川大学創造工学部教授
2025/4～ 香川大学 (併) 情報化推進統合拠点教授
2025/10～ 香川大学 (併) デジタル化統括責任者補佐 (CDO補佐)
2026/1～ 香川大学 (併) 情報化推進統合拠点DX推進研究センター副センター長
2026/4～ 香川大学 (併) イノベーションデザイン研究所ディレクター



教員紹介

パソコンにワクワクする人生

就職した企業では、研究所での研究から商品開発までを経験。ものづくりの楽しさは褪せることがなかったのですが、ある時期から、ただ作るだけでは面白くなりました。この商品を使うお客さんをどう喜ばせようか、世の中にどう役立てようかと、目線としては一段上のことに興味が出てきたのです。そこから、マーケティング～商品企画～設計～制作まで手掛けました。更に、単一企業だけでやりきれない課題があると感じ、大学と組んでの共同研究へと発展。共同研究となると、広い知

見と高い専門性をもつ先生方とディスカッションしながら模索することになりました。共同研究先が香川大学というご縁で自分自身も教員になりました。

今までを振り返ると、全ては小学生の原体験からスタートしています。あの頃の「パソコンは面白い、楽しい」という純粋な気持ちから始まっています。プログラムを書き、プログラムが動いて、自分のやりたかったことができる。その達成感を追い求め、今まで脈々と続いていると感じます。この旅はまだまだ続きそうです。



商品開発チームのリーダーを担当。
ソフトウェア開発の様々な手法を試し、エンジニアとして一番元気があった。

RICOH

リコーITソリューションズ 株式会社

with you :: with value

リコーITソリューションズ 採用

2026年4月、高松に新規事業所開設！

サンポート高松



成長も理想のキャリアも、
この場所で叶えよう！



第3回eスポーツ大会
優勝は山川さん、準優勝は池田さん。
おめでとうございます！



第3回eスポーツ大会
参加者での記念撮影です。



学生ロボット研究所 (SLR)
ロボットに、小さい子どもも興味津々でした。



青春の学祭



部員募集中



讃工祭へようこそ！
暑期中、たくさんの方に来ていただき感謝します。
更にパワーアップして、来年も開催します。

企画・主催・運営：工学催事運営部（部長・阿部真之介）
2026.8.7（金）開催



学生プログラミング研究所 (SLP)
人数が多く、賑やかなブースで良かったです。



さぬきうどん溜さん
冷たいうどん（1杯300円！）、
とても美味しかったです。去年に引き続き、
ありがとうございました。



三和テスコさん
讃工祭に特別協賛していただいた三和テスコさん
「小野瀬さん、来年も一緒にやりましょう！」



学生総合防災無線局（かがラヂ）
直前の参加依頼に関わらず、
参加してくれてありがとうございました。

バックナンバー



創刊号：テーマ「創造」
（2025年9月発行）



2号：テーマ「ワークスペース」
（2026年3月発行）

【創刊号 先生紹介】

松本 洋明教授（材料物質科学コース）
長谷川 裕修准教授（建築・都市環境コース）
井面 仁志教授（防災・危機管理コース）
土谷 圭央講師（機械システムコース）
藤本 憲市教授（人工知能・通信ネットワークコース）
橋本 正樹准教授（情報コース）
柴田 悠基講師（造形・メディアデザインコース）

【2号 先生紹介】

勝又暢久准教授（造形・メディアデザインコース）
山本高広講師（建築・都市環境コース）
丹治裕一教授（人工知能・通信ネットワークコース）
竹之内健介准教授（防災・危機管理コース）
田原圭志朗准教授（材料物質科学コース）
亀井仁志准教授（情報コース）
堤成可講師（機械システムコース）

※肩書きは発行時

詳しくはWEBへ（WEB限定記事はこちらから）



WEBに
記事あり

一緒に広報誌UP!を制作する、 編集部のコアメンバーを募集します！

広報誌UP!は、企画会議～取材撮影～原稿作成～校正～印刷～配布という工程でできあがります。情報を編集する楽しさと読者からのフィードバックは、普段の学生生活で体験できるものではありません。文章を書いたことがない、写真を撮ったことがない等など、全く心配はありません。求めているのは「やる気」と「学生の視点」。また、制作過程でデザイナー、カメラマン、ライター、印刷など専門分野の仕事現場に携わることもあります。まずは連絡をください。

名前、所属、学年、志望動機を
以下のアドレスまで送ってください

メールタイトル：UP!編集部のコアメンバー 希望
oba.haruo@kagawa-u.ac.jp

編集後記

今回の特集テーマは「ターニングポイント」です。取材を通して印象に残ったのは、多くの先生方が「その瞬間に転機だと気づいていたわけではない」ということでした。幼い頃に抱いた知的好奇心、恩師との出会い、思うようにいかなかった経験、大きな決断への挑戦。どれも当時は日常の一場面に過ぎなかった出来事が、振り返ることで人生を形づくる大切な節目になっていました。

私たちは、つい「正しい選択」を探そうとします。しかし今回のお話を伺う中で感じたのは、人生を変えるのは特別な出来事だけではなく、自分の興味を信じて一歩踏み出すこと、目の前のことを積み重ねること、そして人との出会いを大切にすることではないかということです。

創造工学部には、多様な分野で挑戦を続ける教員や学生が集まっています。この冊子が、読者の皆さんにとって、自分自身の歩みを振り返り、今という時間を少し違った視点で見つめるきっかけになれば幸いです。「ターニングポイント」特集は、まだ続きます。次号では、南政宏先生、荒木裕行先生、高橋亨輔先生、丸浩一先生が登場します。それぞれの人生を変えた「転機」とは何だったのか。ぜひ次号もご期待ください。

創造工学部広報室長
造形・メディアデザインコース教授

大場晴夫

次号は2027年3月発行です

パートナー 企業さんの募集

（自由表現型広告協賛のご案内）

[A] 1P ￥200,000
【H245mm×W185mm】

[B] 2枠 ￥80,000
【H94mm×W185mm】

[C] 1枠 ￥40,000
【H47mm×W185mm】

発行日：3月下旬・9月下旬の年2回

発行部数：3,000部

広告申し込み締切日：発行日より2か月前

広告出稿・広告内容について、
事前審査があります。



広告データ入稿締切日：発行日より1か月半前

総合建設コンサルタント
第一 株式会社 第一コンサルタンツ

道路・橋・トンネルなどの社会インフラにおいて
計画・調査・設計・維持管理をする総合建設コンサルタント会社



〒781-5105 高知県高知市介良甲828番地
TEL:088-821-7770 FAX:088-821-7771

仕事もよさこいも本気!!
地域に寄りそう会社です。

橋梁構造課 主任 香川大学 工学部
材料創造工学科卒業



お客様に寄り添い 企業の経営をITの力でサポート

システムの企画から
設計・開発・運用・保守まで
一貫して伴走

民間のお客様から
官公庁・自治体

受託(自社)開発

あらゆる業界の
システムを開発



〒760-0066 香川県高松市福岡町4-5-1

<https://www.tosbac-systems.co.jp/>



海風とかなえるカーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり

海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、

「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、

社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。



東洋建設株式会社 四国支店

〒760-0014 香川県高松市昭和町1丁目3-5

<https://www.toyo-const.co.jp>



香川大学 創造工学部